



本はどうやってつくるの

最初に、どんな本をつくるかプランをねる

本をつくる際には、まず、どんな本にするかプラン（企画）をねります。プラン会議を開いて、対象読者、本の題名、ページ数、体裁、執筆者、発行日などを決めます。そのあと、原稿や絵を依頼します。

原稿や写真・イラストなどを集める

本には、いろいろなものがあります。すべて文字だけの本のほか、絵本、まんが、写真集などです。本をつくるには、原稿となる文章や、絵、写真などを集めなければなりません。また、それらの原稿などが、人びとに「この本、読んでみたい」と思わせるような、みりよくのあるものでなければなりません。

そのために、編集者（本をつくる人）は、表紙にきれいな絵や写真をのせたり、本の題名にもくふうをこらしたり、中の文章もおもしろくするために、何度も書き直したりしています。このような仕事は、執筆者（原稿を書く人）、編集者、イラストレーター（絵やイラストをかく人）、カメラマン、本のデザイナーなどが力を合わせてつくるのです。

文字を校正し、印刷・製本して、書店で売りに出す

これらを本にするには、まず文章の部分を活字にします。そして、その活字にした文字にあやまりがないかどうかチェックします。この作業を、校正作業といいます。また、写真やイラストが指定通りになっているかどうかも確認します。校正が終了したら、いよいよ印刷です。機械にかけて印刷し、印刷のすんだ紙をたばねて、とじ、本の形に仕上げます。これは、印刷会社と製本会社の仕事になります。でき上がった本は、取りつき会社をへて、書店に送られるのです。（監修・青木 国夫）

